

第3回新生公立鳥取環境大学運営協議会及び 第4回鳥取環境大学経営・教育研究審議会準備部会合同会議 議事概要

日 時 平成24年3月28日(水) 13:00～14:25
場 所 鳥取県庁本庁舎3階 第4応接室
出席者 《新生公立鳥取環境大学運営協議会関係者》
○鳥取県：平井知事、横濱教育長、高橋企画部長
○鳥取市：竹内市長、中川教育長、松下企画推進部長
《経営・教育研究審議会準備部会》
○経営審議会委員予定者：道上委員、若原委員、渡邊委員、清水委員、
林田委員、吉田委員
○教育研究審議会委員予定者：上山委員、田中委員、常田委員、中川
委員、横濱委員
《鳥取環境大学》
○鳥取環境大学：古澤学長

○平井知事あいさつ

- ・本日は、運営協議会と審議会準備部会との合同会議を開催したところ、年度末でお忙しい中にも関わらずお集まりいただき、感謝申し上げます。
- ・皆様御承知のとおり、3月26日に公立大学法人の設立認可が総務大臣、文部科学大臣の連名でおりた。
- ・鳥取環境大学を新しい大学へと再生させる、環境学部、経営学部の2学部体制での公立化を目指すという私達が皆で一丸となって努力してきた改革がいよいよスタートすることになった。
- ・受験生の皆さんの評価、保護者や学校関係者の評価も高く、この度の入学試験の状況を見ても、大変な志願者増である。
- ・これも一重に皆さんの力の賜物と感謝を申し上げたい。
- ・これからその期待を現実にできるかどうかの分かれ道になろうかと思う。
- ・本日は、皆様に大変お忙しい中お集まりいただいたが、お知恵をいただき、今後の大学のスタートをいい形で切れるように御審議を賜りたいと考えている。
- ・中長期的な目標をどのように設定するのか。また当面の大学の業務運営について、どのように考えていくのか。
- ・是非とも忌憚のない御意見を賜り、大学の門出を祝福していただければありがたいと思う。
- ・もうすぐ4月になると学生が入ってくる。新しい学び舎として講義が行われ、地域の研究なども大学を舞台に花開いていくことかと思う。
- ・大輪の花が環境大学の地に咲くことを心からお祈り申し上げ、お集まりの皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます、冒頭の御挨拶とさせていただきます。

○竹内市長あいさつ

- ・県・市が設立に関わる公立大学として、この大学がこの春からスタートすることに正式に相成った訳であり、お見えの皆様方には大変お世話になった。心から感謝申し上げたい。
- ・今年は、梅や桜が遅れているようであるが、環境大学の方はもう満開になっているような雰囲気になっているように思う。
- ・学生の志願も定員の10倍を数えるまでになり、入学者も定員を上回る入学者を迎えるような状況にある。入学式が待ち遠しいと思う昨今である。
- ・この度の3月の23日、24日、25日。特に24日の土曜日。人と車が環境大学を溢れるようなエンジン01文化戦略会議のオープンキャンパスイン鳥取環境大学が開かれたが、環境大学の人気は抜群で、環境大学はいい所だと聞かれるような状況もあった。
- ・そして、エンジン01のテーマが、先取りのまちになるということであり、いろいろな文化の取組が鳥取を大きく前進させるパワーとなることを痛感する機会であった。
- ・多くの方もエンジン01に参加する中で実感されたと思う。
- ・こうした大きな勢いをこの環境大学の発展に繋げていくような取組ができるよう、私自身も微力ながら頑張るつもりであるし、県の皆さん、大学の関係者の皆さん、そして大学を支える今日のお越しの皆さんには引き続きの御尽力、御支援、御指導をお願いしたいと思う。

●事務局

- ・それでは早速、協議・報告事項に入らせていただく。
- ・お手元に配布している次第のとおりであるが、公立大学法人鳥取環境大学の設立及び役員体制、新生公立鳥取環境大学運営協議会平成24年度予算・事業計画、公立大学法人鳥取環境大学業務方法書及び授業料等料金の上限について、一括して協議会事務局の中山事務局長が御説明する。

●中山事務局長

資料1から5まで説明（略）

●事務局

- ・新しい大学の運営等に関する御説明をさせていただいたが、御意見、御質問をお願いしたい。

○若原委員

- ・認証評価であるが、7年に1度受けるものであるが、25年度に受けるというのは、前回受けてからもう7年経つということか。

●中山局長

- ・定期的な評価を実施してから7年目が25年度ということになる。
- ・先ほども御説明したように、25年度は、まだ、旧学部と新学部があり、新カリキュラムと旧カリキュラムが併存した形での評価を受けるということになるので、新しい新大学としての評価として、それが十分かと言われると、なかなか疑問の点もある。
- ・若干期間が短くなるが、27年度以降にもう1回認証評価を受けていただきたい。

○若原委員

- ・24年度から7年目に受ければよいということにはならないか。

●中山局長

- ・選択すればできるかとは思う。ただ、大学改革の意味をできるだけ早期に県民なり市民の方々へお見せしたいと考えているので、その意味で、若干期間を速めていただきたいと思っている。

○横濱委員

- ・概要の3ページ。この2番のかっこ2。研究実施体制の整備に関する目標達成のための計画で、若手研究者の育成等の部分。学長のリーダーシップによって、学内に競争的研究費を設けるとあり、とてもいいことだと思うが、どのレベルの研究費で、お互いに競争させていくのかという辺りについてお伺いしたい。

●古澤学長

- ・だいたい1,000万円で、種類を分けてやりたいと思っている。

○横濱委員

- ・そうすると数がたくさん出てくれば、1件当たりが少なくなるのではないか。

●古澤学長

- ・大学の教員は、いろいろな外部資金を応募されているので、それほどの必要はあまり認めてないのかなとも思うが、主として、せっかく出してもうまくとれなかった先生方に対して、そのような補助を行いたいと思っている。

○横濱委員

- ・若手研究者の育成という所が、特に大事かと思う。そうすると戦略的に競争的研究費をたくさんつけていただきたいと思う。

●古澤学長

- ・本学では若手の先生が積極的に動いておられるので、そこからも十分にとっておられることが多い。

●中山局長

- ・県の外部資金、競争的研究資金も、当初と比べ獲得する額が大分減ってきているので、その辺りは、また教員の方にいろいろな意識を持っていただき、県に限らず、国の方の外部資金も積極的に応募するための準備的な経費としても扱いたいと思っている。
- ・ただ、のんびんだらりと応募するのも決していいことではないと思っているので、そこは学長なり、学部長なり、副学長の采配のもと、より環境大学の名前を高めると言うか、特徴ある研究への予備的な資金或いは応援する資金としての活用をお願いしたいと思っている。

○若原委員

- ・外部資金に申請して通らなかったものをブラッシュアップするために補助をするという制度は、学内の研究者を育てる上で大変重要だと思う。

○道上委員

- ・中期計画の所の資料6-1の3ページの所に、縷々学生確保のための継続的な見直しということが書いてあるが、歴史的にみると環境大学の最初のときは、非常にたくさんの学生が集まった。
- ・それはそれで非常に良かったが、どちらかというと、良すぎて、多少気が緩んだということがあったのかなと思う。
- ・今度は、皆さんの努力によって、志願者が定員の10倍以上となった。これは非常にいいことであるが、ここにあるように、来年、再来年が、より環境大学の試金石になると考えられるので、いろいろな観点から、これを分析しながら、もう一度、この中期計画の中で戦略を立てないといけないと思う。
- ・ここにおられるような人や、幹部の人は、それなりの自覚があると思うが、これから新しく来る先生や、或いは現実におられる先生方が、環境大学は公立化して非常にたくさん学生が来てよかったよかったで浮かれないようにしなければいけない。
- ・その1つの対策が、例えば、新しい環境大学はどういう形になるかということ、パワーポイントのようなものを作って、皆さんが中身を共有化する。
- ・それを持って各高校に行って、各先生方に上手にプレゼンテーションを行なっていただくとか。
- ・場合によると事務の人もされると思うが、主には、先生方が行かないといけない。
- ・今まで議論された様々なデータがあるので、事務局サイドでそれをきちんと整理して、うまくパワーポイントのようなものを作って、それを先生方にお示しして、そういうものを持って各高校の方に行くと。
- ・或いはいろんな機会をとらえて、プレゼンしていくということをしていかない。
- ・新しく来る先生方は、あまり細かいことは御存知ないかもしれないし、今おられる先生方も、前の環境大学ではない新しい環境大学であるという認識に立って、皆さんがもう一度原点に立って、来年度に向かって、或いは再来年度に向かって、志願者を増やす、或いは入学者を増やす、学生を増やす努力をやっていただきたい。

- ・それに付随していろんな問題があるが、そこが一番大きな問題であるので、是非ともそれを中期計画の中に謳いながら、かつそれを、書くだけではいけないので、書いたものを各教官にきちんと情報伝達して知っていただく。
- ・ここが一番重要なことではないかと思う。

●中山局長

- ・委員言われるように、確かに今10倍であるが、知事のあいさつにもあったように、併願が可能だというような受験の特殊性もあり、今回増えているものがあるかと思う。
- ・是非その辺の状況を分析するとともに、2度と同じ轍を踏まないということで、教職員等が一丸となって意識を共有した体制というものは必要だと思う。
- ・書き込み方だとかは工夫さしていただいて、中期計画とこれを受けた年度計画での書き込み、行動プランというものは考えさせていただきたい。

○林田委員

- ・今のことにも関連するが、この計画の中にどう書くのかは別にしても、今言われたことはとても大事なことだと思う。
- ・それは、新しい大学の理念と同時に、実践として、このようなことで魅力があるということを皆さん自身が説得できるような学内意思統一が非常に大切なことなのではないかという気がしている。
- ・それからもう一つは、我々がここで説明を受けて頑張っていらっしゃるなどというような感じに対して、どうもいろんな人に聞くと、まだまだ県内での評価というのは、前の大学を引きづっているような所が非常に強いのではないかという気がする。
- ・それは、幸い県・市の教育長さんもいらっしゃるわけであるが、進学させる生徒達に対して、内容を正確に伝えるというか、この努力が実を結んでいるというような所は十分に理解をもらって、それで、進路指導、進学をしてもらえるような体制をどうやって作っていくかということがとても大事な気がする。

●古澤学長

- ・今回の試験の流れを見ていると、県内の方々への浸透が非常に少ないというか、県外から非常に来ていただいているので、結局は大きな差がついてしまったように思う。
- ・それを見て、24年度については、またいろいろと考えたいと思っているし、私も実は4回、県内の高校を回らせていただいた。
- ・その際にもしっかりと説明しているが、県外の方が積極的に本学を考えていただいた結果が出てしまっているのので、来年度については、しっかりとその点も考えていきたい。

○平井知事

- ・今のお話に関連しているので、発言させていただくと、これからは正念場だと思う。

- ・今回は学生募集が非常にうまくいった。
- ・ただ、以前と同じことにならないようにしていくためには、私は2つほどポイントがあると思う。
- ・1つは、今から4年間非常に難しいのは、中にいる学生がまだ入れ替わりきらないときに、就職という出口が見えてくることである。
- ・であるので、学生は、新しい体制で今回採用され始めるが、今いる学生が2年生になり3年生になり4年生になり卒業してく。
- ・そのような学生達が就職率として、現在の70数パーセントぐらいということではなくて、ここにあるような91%という目標を目指そうということを考えると、相当ここを努力しなければいけない。
- ・おそらく県内の親御さん達は、そこを非常に気にされていると思う。
- ・であるので、隣の島根県立大学などは、このようなリクルートには非常に力を入れられおり、石川県などでは、偏差値が極端に高い大学でなくても、言わば一部上場企業などにしっかりと就職させるような大学もある。
- ・そのような他大学のノウハウをこの機会にしっかり取り入れて、人を雇う必要があれば雇ってもいいと思うが、就職に力を入れて、面倒見のいい大学であると。
- ・そここのところを実践する必要があるのかなと思う。
- ・これは、今回の中期目標の達成とも絡んでの話であり、これから同じ轍を踏まないということの条件になると思う。
- ・2つ目は、県内の学生がもう一つついてこないという話があるが、もっと大学の動きが見えやすくする必要はあるのかなと思う。
- ・せっかく西部サテライトキャンパスもできる。
- ・ついこの間は、エンジン01があり、市長がお話の中でも触れていたが、環境大学始まって以来の大渋滞と大混雑があった。
- ・開学以来の快挙だと思うが、ああいうことが、もっとあってもいいのではないかなと思う。
- ・環境大学に行ったことが無いという人も、意外にあの時は多かったわけであり、ものによってはオープンキャンパス的に公開講座を積極的に打って行くとか。
- ・先般は廃棄物の国際学会をやっておられたが、あのような世界標準だとか、日本全体に目がけて発信していくような、パフォーマンスが少し入るかもしれないが、そのようなやり方をしていかないと、地元にはこのような大学があるから入りたいなということに、なかなか意識が切り替わっていかないのではないかなと思う。
- ・その辺は、学長がかなり人材を揃えられたので、ネームバリューのある人もたくさん来ておられる。
- ・世の中でも、ちょうど環境に対する意識が強くなっており、海外への企業流出をどうやって食い止めるかというような問題意識も強くなっている。
- ・その意味で環境大学が今目指そうとしている教育を活用して、日本の問題を、或いは世界の問題をここで考えるのだというぐらいのアピールのあるセミナーなどをやってみたらどうかと思う。

- ・今回吉林省から吉林大学の王勝今先生達がお見えになるということであり、調印式を学長がされるのではないかと思う。
- ・そのように国際的にもパイプができてくるので、そのような先生方とも連携して、地球環境を考えようとか、或いは企業の活力を考えようというようなことを大学としても自主事業でやってみたらどうかと思う。
- ・そのような動きが見えてくると、だんだん県内の学生も、わざわざ遠くに行かなくても、目の前にいい大学があるなという意識に変わってくるのではないかと思う。

●古澤学長

- ・今の知事の言葉に関連したお話をさせていただきたい。
- ・大変大事な部分を御指摘いただいたが、特に新しい大学ができる場合には、どうしても先生方が新しい1年生に目を向けてしまうことがあり、2年生、3年生、4年生をほったらかしにしないようにということを、何回も何回も今まで言ってきたし、これからもそこをしっかりとやっていただかないと、大学は不安定になるということが一つある。
- ・それから就職も頑張っており、85%を超え、88%ぐらいまでは行くかなと思っている。
- ・大学を見えやすくというお話があったが、確かに県内の学生に見え難くて、何故県外の学生には見えやすいのかという部分があり、全国で環境大学に来ていないところは秋田県だけで、後全部来ていただいている。
- ・だから、我々の発信がそれほど少ないというわけではなく、県内が何故見えないのかという部分はあるが、発信はしっかりできているのではないかとは思ふ。ただし、県内への発信の仕方は、やはりあるかなと思う。
- ・それから吉林大学、これは知事にお話をいただき、4月4日には調印式をやりたいと思っている。

○竹内市長

- ・今の話にも関連するが、地域でのイベントであるエンジン01の会場に環境大学が選ばれ、たくさんの方が来学した。
- ・エンジン02、03もやろうではないかという話も方向づけができてきたので、引き続き、多くの文化人が集まり、集客力のあるようなイベントを、環境大学を一つの核にしながら開催できたらと思っている。
- ・県内からの注目度を高めるという観点からもいいのではないかと思う。
- ・県内に向けた発信ということは、県の教育委員会、或いは市の教育委員会、教育委員会サイドでの取組も必要だと思うが、大学からいろんな形で地域に呼びかけて行ってもらおうということが一つ課題となってくる。
- ・この点について、道上先生もおられるが、いわゆるトルクである。
- ・トルクの活動は、地域連携というものを大きな柱にしているので、この辺りは、普通の大学と違った地域とのかかわりを持っていけると思う。

- ・いろいろな事例の紹介であるとか、研究の発表など、いろいろな機会に大学キャンパス、或いはサテライトオフィスを会場に、どんどん地域に向けて発信したり、展開したりして行けたらと思う。
- ・もう一つは中期目標に、目標期間内に150人の留学経験者を段階的に増加させるという内容があるが、この実施にかかわる話に少し触れたい。
- ・今後留学生を増やすには、留学をさせる、或いは短期の海外経験をさせるなどのいろいろなことに関する大学の組織的な支援が不可欠ではないかと思う。
- ・これは単に語学の先生方が何かするというだけではなく、それぞれ各国、特に東アジアの国々向けに、韓国の担当の先生であるとか、中国の担当の先生であるとか、或いはロシアの担当の先生であるとか、各国別に担当の相談を受ける先生や企画するような先生がいて、留学に持って行きやすいような学生に対するいろいろな支援、或いは夏休みの体験旅行などもできたらいいなと思う。
- ・このようなことは、学生にとっても夢のある話であるし、今引っ込み思案が多いとか、或いは海外に目を向けることが必ずしも積極的でない学生達が多いと言われている。
- ・鳥取市は、清洲市との交流の中で環境大学の学生の交流をこれまでもサポートしてきた所はあるが、数字を挙げるからには、これを実施する方策、或いは具体的な実現のための方法論といったものを一度本格的に議論していただけたらと思う。
- ・実現に向けての方策は、環境大学らしいいろいろな取組があってもいいはずだと思うが、この辺は、今後、或いは今の時点でどうなっているのか。

●中山局長

- ・今の現状を申し上げると、この数値目標達成のアクションプランは、まだきちんとしたものができていない状況になっている。
- ・特に、中期目標では、例えば、志願倍率を何倍まで持って行くとか、留学生を何倍にするというような具体的な目標数値は掲げているが、では、年度年度どこまで目指すのかであるとか、或いは3年度後にはどのような計画になっているかというような具体のものは、まだきちんとしたものは出来上がりきっていない状況である。
- ・今回中期計画は、2回目の議論であるので、そのような状況を踏まえながら、年度計画を検討していかなければいけない。
- ・当然、中期計画を実施するためには、毎年毎年何をやっていくかということを決めないと具体のものにはならないので、市長や知事、また、委員の皆様方の御指摘などを受けながら、次の段階では、具体的には何をやるのだということこれから深掘りさせていきたいと思っている。

○常田委員

- ・真に魅力ある大学として持続的発展を続けて行くために非常に重要なのは、教員だと思っている。
- ・この中で任期5年ということが書いてあるが、報酬もカットされているが、プロパーの教員、それから研究者、そのようなものの養成がないと、なかなか知的蓄積はでき

てこない。

- ・そうすると大学の独自性のある発展は、私は難しいのではないかと考えている。
- ・大学の先生、教授が変わると、次来られた先生が前におられた先生と違う特徴を出されたりというようなことがありがちであるので、その部分が少し心配である。

●古澤学長

- ・ここでは、任期制5年を全教員に適用するという事になっている。
- ・ただ、5年で切るというような意味ではなく、教員評価というものも、実は今年から実施しているが、教員評価をやりながら、5年間というものを一つの目安にして、先生方に、問題の部分は解消していきながら、少しでも向上していただく一つの区切りとして考えている。
- ・ここで必ず首を切るという意味はまったくない。5年10年と勤務していただけるようにはしているので、今おっしゃられたような心配はないが、大学の先生もいろいろ問題がある場合もあるので。
- ・5年というものは一つの区切りとして、やはり注意をする強さ加減もでてくるであろうし、そのような意味の5年であるので、全体の流れがそこで途切れるということではない。
- ・今年からスタートであるので、5年後には任期が切れるような状況になるが、全員が変わるようなこともなく、あまり心配はしていない。

○常田委員

- ・私が心配するのは、魅力ある、独自性のある部分をどのように継続していくかということである。

●古澤学長

- ・そういった部分があるということは、先生方もしっかりと反省もされ、次への行動も図られると考えている。

○常田委員

- ・是非知の蓄積ができるよう、若手育成も含めて、環境大学としての継続性のある知的集積ができ、魅力がどんどん増していく、そういう形に持って行っていただけたらと思う。

○田中委員

- ・計画なり目標というものにはまったく異存が無く、是非このようなことを具体的に実現していただければと感じる。
- ・ただ、いい大学を作るということも大事であるが、それをどう伝えるかということをもう少し具体的に考えてもいいのではないかと考える。
- ・例えば高校生に伝わらないとか、県内にはなかなか浸透していないという話が先程か

ら出ている。

- ・いい大学を創ろう創ろうとすることには、非常に努力されてきたと思うが、それが意外に知られていないということが現実だと思う。
- ・このような中期計画をずっと今までファイルして持っているが、この中にいる人間は文章を読めば分かると思うが、これが、例えば県民にこのままの文章で流しても多分誰も分からないと思う。
- ・例えば、県の広報などでは、最近まんがが使われて広報されている。
- ・僕は、あれがいいか悪いかは良く分からないが、例えばイラストを使ってみたりとか、例えば字の大きさでも大きくしたり小さくしたり、ビジュアル的にもう少し工夫する余地も十分にある。
- ・それは我々に対してではなく、例えば、4月から新しく生まれる新生環境大学を、高校生に、或いは企業に、或いは県外にと、それぞれのターゲットが違うとは思いますが、分かりやすく、写真なりイラストなり、理念なりというものをまとめる。
- ・例えば、パンフレットを作られて、それがホームページにあってもいいかもしれない。学校要覧の方であってもいいかもしれない。
- ・いい大学ですよ、これから生まれ変わりますよということを、効果的に伝えるということ、是非戦略的に考えていただければと思っている。

●中山局長

- ・広報関係、この度の公立化に合わせて県なり市の方からもブラッシュアップをお願いしており、実はホームページの全面的改定とか、いろいろな形での努力を大学にもお願いしている。
- ・その中で、田中委員言われたような、パンフレット、或いは、県内高校生にどうアピールする資料を作ったらいいのかとか、その辺りをもう一回考えていただき、大学の方で、公立化を契機に、広報戦略を改めて生まれ変わらせるような形にさせていただけたらと思っている。
- ・県も市もセットで、協議の方にはかかわりたいと思っている。

○田中委員

- ・例えば、地域イノベーション研究センター。大学と地域を結ぶ窓口としての役割を負われるということで、これもこの場では良く分かるが、例えば、県内のNPO法人の皆さんとか、地域活動をされていらっしゃる方とか、企業とか、経済団体の皆さんが、どこに接点を求めればよいのかということ伝えるのに、ここで議論していても意味がないので、これをどう打ち出していくのか、どう効果的にしていただくのか。
- ・このようなことは、結構簡単なようで大事な問題ではないのかなと思っている。

●古澤学長

- ・今回トルクが統合していただいて、新たに地域への活動をこれからやろうとスタート台に立ったところであり、これからしっかりとさせていただく。

- ・そのような窓口もしっかりと作りたと思うし、十分大事にしていきたいと思う。
- ・先ほど県内の話が出たが、今年志願していただいた人が2,753人で、県内が340人であった。
- ・340人というのが多いのか少ないのかということは、非常に難しい問題があるが、約12.4%である。
- ・実際に340人の中で、どれだけ入学できるかということに関しては、またクエスチョンがたくさんつく。なかなか県内は厳しい。
- ・この340人の中に、指定校の30人がおり、指定校の人は必ず入ってくださるが、競争が非常に厳しい状況であるので、残念ながら、このパーセンテージはなかなか上がらないのではないかと考えている。
- ・この辺り本学をどのように見ていただいているのかということも非常に大きい。
- ・これまで、本学の悪さ加減が出ていたので、そのような評価のもとで、今年は動いていると思う。
- ・来年からすぐに回復と言うのは非常に難しいかもしれないが、来年からはしっかり本学を見ていただけるのではないかと考えている。

○道上委員

- ・鳥大も県内出身者は20%以下で、15～16%ぐらいだと思う。
- ・例えば獣医学科などは0%。県内の人なかなか入れないような状況である。
- ・学部によって違うが、20%はなかなか超えてないと思う。
- ・だから、10何パーセントというのはそんなに悪いわけではないが、ただ、公立大学として生きて行くためには、もう少し欲しいなと思う。県内の枠も設けているわけがあるので、将来はもっと増えて行かないといけない。
- ・そこをどうするかというのは、学長言われたように過去の歴史があるので、そこを克服するためには力がある。

●古澤学長

- ・過去の歴史はきついものがあるので、なかなか克服は難しいが。
- ・やはり県内の学生がたくさん来て活性化するとまた見直していただけるので、私は、十分これから増えてくるのではないかと考えている。

○平井知事

- ・だから先ほど申し上げたように、就職のことを保護者は心配しているので、そこはしっかり出していく必要があると思う。
- ・後もう一つは、せっかくいい先生方を古澤先生が集めていただいたので、そのような人材を使って、すごい大学だなど、地元の人にも思ってもらえるようなパフォーマンス的なイベントを考えた方がいいのではないかと考える。
- ・その辺の財源はあると思うし、我々も応援する。

●古澤学長

- ・それについては、早速、いろいろな形で先生方の講演会も開いていきたいし、いろいろな企画をしている。
- ・4月からすぐにスタートさせていきたいと思っている。

○上山委員

- ・高等学校等との連携という所があるが、鳥取県下理数科の子ども達がだんだん少なくなってきた。
- ・高校普通科などでは、割合的に理数科の子どもたちが少なくなっている。
- ・そういう意味では、理数科を好きになってくれる子ども達を増やしていくのも、大学の使命かなという思いがしている。
- ・それで、鳥取大学、米子高専とか、そのような技術系、理数系の所と連携する必要がある。
- ・子ども達が一番分かりやすいのは、よく出前講座で大学や、高専の先生などが来てくれて、簡単な実験をすると、すごく思い出に残るといふか、心に残るといふことがあるようである。
- ・その辺で、まず鳥取県の理数科が好きな子ども達を増やすということも大事な取組だろうと思っている。
- ・鳥取県下を見据えて学生を採るといふことであれば、鳥取市と鳥取県の共同の設立であるので、県・市の教育委員会以外の、例えば倉吉であるとか、米子の方とも連携したところで、何か取組ができないかといふようなことを探っていくことも大事ではないかと思っている。

●古澤学長

- ・今回米子の方に西部キャンパスを作らせていただき、いろいろな活動をしてきたいと思っている。

○横濱委員

- ・先ほどから高校生に伝わらないと話があったが、私は伝わっていると思う。
- ・大学側の努力もあるし、私どもも話をしており、関心は高いと思っている。
- ・広報が足りないということではなく、環境大学を目指すということは、ある程度地元志向が強いといふことの表れであると思う。
- ・そんな中で、卒業後どうなるのかとか、そういった全体的なビジョンがなかなか見え難いのではないかと思う。
- ・環境大学で学ぶ内容やそれにつながる世界がどうなのかといふようなことについて、全体的なビジョンを含めた情報提供が必要ではないかと思う
- ・高校生に伝わっていないから広報のあり方をこうしましょうといふだけでは、なかなか対処できないのではないかと思う。

○中川委員

- ・地域の学校との連携とか、教育支援というようなことを挙げていただいております、これも早速動いていただいております、動きが早いなどありがたいと思っています。
- ・ただ、いきなり学校現場に行かれて校長先生と話をされると、校長先生方は、市教委は当然把握しているという頭で話を進めるが、肝心の市教委が知らなかったりして、また来ていただいて、説明を受けるということもあった。
- ・少しその辺のルールと言うか、その辺りを守っていただけたらと思う。
- ・特にこのような、小・中或いは高校との教育支援というのは、将来の投資になると思う。
- ・このような活動が、環境大学の先生にこんなことを習ったというようなことで、非常に大きな種まきだと思う。
- ・それから毎年夏に小学校の鳥取市のPTAの総会と研究会を開催するが、環境大学を使わせていただいております、これは非常にありがたいと思っています。
- ・私はその時に将来の御子弟の進路の一つにこの大学を考えてくださいということを必ず言うが、このように地域に施設を開くということも、大きな投資であると思っている。是非、引き続きお願いしたい。

○常田委員

- ・知事も言われる就職ということに関して、我々含めて企業サイドも大学の特色であるとか、まだまだ知らない部分がある。
- ・やはり親御さん達に皆さん聞いてみると、鳥取県内でいい就職口があればという方が多いわけであるし、県外に出ている大学生も、県内に帰りたいという希望も非常に多いわけである。
- ・そうした場合、鳥取環境大学の環境士がどのような資格であるのかとか、環境大学の特色や大学ではこのようなことが身に付くとか、他の大学とどう違うのか、地域の産業とどうからむのかなどについて、もっと勉強するとともに、是非とも知らしていただければ、県内の就職も伸びてくるのではないかと思っている。

○竹内市長

- ・今、就職の話が中心になっているが、県内就職の可能性を高めるということについては、私も市の政策として非常に力を入れており、市内就職奨励金を出したりしている。
- ・また、大学を設置している立場として、環境大学の学生については、就職奨励なり、インターンシップ制度の活用なり、いつも申し述べているわけである。
- ・今後もこれは非常に強化したい。
- ・その中で、今度経営学部というものも出来ており、今は、自ら起業するということに対して、学生の関心はかなり高いものがあると思う。
- ・成功失敗はいろいろ有ると思うが、就職という狭い人生の道だけではなくて、起業ということに対してもある程度教えたりする必要があるのではないか。
- ・就職率の計算上、起業は就職したことになっているのか。

●古澤学長

- ・なっている。

○竹内市長

- ・地元でいわゆる企業に勤めるということだけではなく、起業という道も大きな可能性があるものだと思う。
- ・県もそうであるが、市も起業に対して、いろんな支援の方策を持っている。
- ・そういったことについて、特に経営学部の先生も来られる中で、経営学部のみならず、現在の環境情報学部の学生達についても、是非サポートして欲しい。

●古澤学長

- ・これまで本学でも、何人かの学生が起業している。
- ・我々としても、いろんな形で日頃から連絡もとりながら、バックアップしている。
- ・今後もそのような形で、起業する学生が出てくるのではないかと思っている。

○竹内市長

- ・是非より一層のサポートをお願いしたい。

○道上委員

- ・業を興す起業は非常に重要であるが、今の日本の学生、或いは日本の教育の在り方では業を興すまでにはいかない。その前段階がいるわけである。
- ・一つ具体的に言うと、インターンシップなどを1年生、2年生、3年生、4年生が毎年実施し、これを長期間やっていく。
- ・現場とはこういうものである、こういう業があることをしっかりと認識した上で講義を聞けば、やってみようかなという人が出てくると思う。
- ・あまりそこを重視しておらず、座学を中心としていては、業なんかを興せる訳がない。業を興したことがない先生が講義をしてもなかなか難しい。
- ・例えば、金沢の金沢学院大学はインターンシップで非常に有名になった大学であるが、1955年頃スタートした大学である。毎年、業を興す人も出ている。
- ・そのような教育風土が日本には出来上がっていない。受験勉強もさることながら、大学でも座学中心でやってきている。
- ・それではうまくないので、環境大学ではプロジェクト研究を現場に出かけてやっている。
- ・こういうのをやりながらインターンシップをやっていかないと、なかなか業を興してもすぐに失敗するし、そんなに簡単にうまくいかない。
- ・このように、業を興しなさいと言われても、なかなか日本の中ではやりにくい状況にある。
- ・アメリカのシリコンバレーなどとは違うが、これから日本でも若い人が起業家になっ

ていただきたい、そうなるにはどうしたらいいのかという議論をしていかないといけない。

- 例えば、長期的なインターンシップの実施に当たって、市役所でもアルバイト料的なものの資金を出すとか、企業にもそれをお願いするとか。
- ただ今は不景気であるので、その部分を国なり県・市のレベルで応援すれば、そこが学生の生活資金になる。
- そのような経験を積んだ上でないと、なかなか業は興しにくいと私は思う。
- 起業をしている人は大抵学生の時にいろいろやっている。そのような時の支援をお願いしたいと私は思う。

○若原委員

- 起業する精神を育てることは非常に大事なことだと思うが、起業化しなさいと学生に勧めることは、大学としては非常に慎重にならざるを得ない。
- 起業しても成功例は非常に少ないので、大学が保障、責任を持つとすれば、簡単にやりなさいとかけしかけるとか、勧めることにはなりにくいと思う。
- 慎重にならざるを得ないが、ただ、そういった精神を持った学生は育てたいと思う。

●古澤学長

- 環境大学でもいろいろな所でインターンシップをやらせていただいている。
- 直接起業に結びつかなくても、外のものを見ることは大変いいことだと思う。
- プロジェクト研究もずっと4年間やっているのだから、他の大学と比べれば外を見ている学生を作っていると思っている。

○高橋県企画部長

- 海外との大学の関係であるが、今回の県議会でもいろいろな論戦があった。
- 学長の御尽力で各大学との交流締結を結ぶというところまでできたが、これはまだスタートラインだと思っている。
- 研究交流とかいろいろな交流を深めていただいた上で、学生がいろいろな経験ができるよう、交換留学みたいなことが各大学とできるような深みのある交流に結びつけていただきたいと思う。
- 先ほど地域イノベーション研究センターの話が出たが、トルクと今回統合して新しい大学の一つの売りという恰好になる。
- トルクの活動をそのまま実施するのでは大学と合体、結婚した意味がないので、大学の教員の方も積極的にセンターの傘の中で地域に出て行っていただくよう学長の方からも是非お願いしていただきたい。

○古澤学長

- 11年目の大学であるので、まだまだ他大学との交流も形だけに終わっている部分が多いが、やはり本学の中身と交流する中身がマッチングしていないとなかなか難しい。

- ・最近、先生方がモンゴルの大学と交流してほしいと持ちかけられたことがあるので、そこは環境学部と連携ができると思う。こうなるとスムーズに行くと思っている。
- ・マレーシアでのインターンシップでは、日本の学生さんをとってもいいよと言われていたので、いろいろなところで経験させてやりたいと思っている。
- ・もう少しお時間をいただきたい。まずは、大学がスタートしないといけない。

●事務局

- ・それでは、今日いただいた意見を中期計画に反映させていただき、御協議いただきたいと思っている。
- ・それでは、以上を持って会議を終了したい。

以 上